

伝統文化や文化財を活用したワークショップの開発と実践

最終更新日：2015年8月28日

美術教育講座
准教授
松久 公嗣

キーワード ・文化財 ・伝統文化 ・宗像大社 ・日本画 ・ワークショップ

研究シーズの説明 (私は、このような研究に取り組んでいます。)

地域に現存する文化財や芸術作品を活用した小学生～高校生を対象としたワークショップについて、対象となる地域や年齢に即した内容の開発を行い、各学校や教育関連施設と連携して実践しています。
これまでに進めてきた内容は以下の通りです。

- 1: 日本の伝統文化としての掛軸の理解を進めるための掛軸制作ワークショップの開発と実践
- 2: 装飾古墳となる『桜京古墳』(宗像市)の装飾文様を活用したワークショップの開発と実践
 - (1)九州各地の装飾古墳に関する調査・研究
 - (2)絵具をつくる体験を融合した『ストーンアート』ワークショップの実践



成果の応用可能性 (私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

掛軸といった伝統的な表現形式を用いて進めることによって、廃れつつある和の伝統文化を見直し、再評価して現代における活用方法を考えるきっかけとなります。

また、装飾古墳に描かれた文様の理解を中心に、古代の遺跡について興味関心を持ち、古代の人と同じ材料や道具を用いて追体験することは、普遍的な美を体感的に経験する機会となると考えます。



これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

掛け軸ワークショップ

「卒業記念制作」

赤間小学校 2007年-2010年

地島小学校 2010年-2014年

「自分のイメージを掛け軸にしよう」

北九州市立美術館 2010年

ひらめき☆ときめきサイエンス

2008年-2010年

「ストーンアート」

海の道むなかた館 2015年

掛け軸ワークショップ in Milano 2011年